

調査報告概要表

作成日 平成21年 2月15日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670103185
法人名	医療法人 慈恵会
事業所名	グループホーム ザ・テラス 西田橋
所在地 (電話番号)	鹿児島市西田1丁目11-1 (電 話) 099-213-0091
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成21年 2月15日

【情報提供票より】(21年 1月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.2人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築／改築
建物構造	RC 造り	
	6 階建ての	4 階 ～ 6 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(1月 24日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低 72 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	土橋病院、吉元歯科診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島中央駅や郵便局、スーパーや公園などが近くにあり、利便性がよく、利用者の希望に応じて外出支援を行い施設に閉じ込めないケアを行っている。家庭のようにくつろげる空間づくりを心がけ、利用者の希望や意思を尊重し、趣味や能力やペースに合わせたケアを提供している。近隣に、協力医療機関や介護老人保健施設や地域包括支援センターがあり、健康管理や援助についてアドバイスを受けながら、利用者や家族が安心して生活できるように支援を行っている。地域の小学生のふれあい交流や中学生の体験学習、高等学校や専門学校の実習や慰問活動、さわやか会などボランティアを受け入れ世代間交流を積極的に行い地域に根ざした事業に取り組んでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の評価結果は、運営推進会議で参加者に報告し、改善について話し合い、地域活動に参加するなど、地域密着型サービスを意識した事業運営に取り組んでいる。また、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときはさりげなく一緒に散歩についていくなど、利用者の行動を見守りながら支援を行っている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) これまでの外部評価の結果を誰もが閲覧できるように玄関横の棚に設置されている。月1回の職員ミーティングで利用者の処遇改善について話し合っている。自己評価は職員全員にアンケートを行いその結果をまとめ自己評価票を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、町内会や老人会、民生委員、家族の参加があり、出席者意見や助言を今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。また、運営会議が地域の情報交換など地域の交流に結び付けており、地域に根ざした運営を目指している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日頃から職員に対して意見や苦情を訴えやすい雰囲気づくりに努めており、家族との会話から要望をくみとるようにしている。また、意見箱を設置し、出された苦情や要望は、内容の詳細をノートに記載し、職員で改善に向けて話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の小学生のふれあい交流や中学生の体験学習、高等学校や専門学校の実習や慰問活動、さわやか会などボランティアを受け入れ世代間交流を積極的に行っている。また、運営推進会議には老人会や町内会の役員や民生委員の方がメンバーとして参加されており、地域との情報を交換しながら地域の行事などに積極的に参加している。

調 査 報 告 書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時より運営方針として、地域密着型のサービスを意識し、地域で日常生活を継続し、地域活動に積極的に参加する地域に開かれた事業を目指している。「ゆっくり やさしく おだやかに」(ともに楽しく 健やか)という理念のもとで、利用者の生活行動に配慮した地域に根ざした寄り添う介護を実践している。現在、理念について見直しを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型のサービスを意識した運営方針を各階の入り口に掲示している。理念は色紙に書き、各フロアの中央に掲示しており、日々の業務の中で理念を意識して介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学生のふれあい交流や中学生の体験学習、高等学校や専門学校の実習や慰問活動、さわやか会などボランティアを受け入れ、世代間交流を積極的に行っている。また、運営推進会議には老人会や町内会の役員や民生委員がメンバーとして参加されており、地域との情報を交換しながら地域の行事などに積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果は、運営推進会議で参加者に報告し、月1回の職員ミーティングで利用者の処遇改善について話し合っている。また、これまでの評価結果を誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。自己評価は職員全員にアンケートなどを行い評価票を作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会や老人会、民生委員、家族の参加があり、出席者意見や助言を今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。また、運営会議が地域の情報交換など地域の交流に結び付けており、地域に根ざした運営を目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に2回市の訪問調査を受け入れている。また、市担当窓口や地域包括支援センターなどへ生活保護や介護保険などの申請などの機会に訪問し、情報交換を行っている。地域におけるグループホームの役割や運営など地域との繋がりについて相談しながら、協同してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、個別なお手紙と金銭管理状況、ホーム便りを添えて毎月家族に配り報告している。ホーム便りは入所時に本人や家族の承諾を得て、写真などを掲載しており、家族や運営会議の出席者にも配布している。また、健康状態に変化があったときにはその都度電話で家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員に対して意見や苦情を訴えやすい雰囲気づくりに努めており、家族との会話から要望をくみとるようにしている。また、意見箱を設置し、出された苦情や要望は、内容の詳細をノートに記載し、職員で改善に向けて話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や退職の場合は、研修期間を設け、業務を2人で行い引継ぎを十分に行うなど利用者への影響を考慮し対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人研修や職員全体の研修を積極的に行っている。しかし、施設外の研修に参加する機会が少なく、研修案内はしているが、自主的な参加に留まっているようである。また、経験年数に応じた計画的な研修体系が整っているとはいえない。	○	経験年数に応じた研修や施設外の研修を計画的に行い、経験に応じた能力や技術の修得機会を設け、ケアの質の向上に努めることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、研修の機会や市のグループホーム協議会に加入し、他のグループホームとの交流があり、情報交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にケアマネジャー等の関係者と連絡を取り、必要があれば自宅での面談を行っている。また、出来るだけホームを見学してもらい、徐々に馴染めるような関係づくりを行っている。また、家族と相談しながら、利用者の希望に沿い利用者と共に外出時に自宅に訪問するなど、利用者の心理に配慮し柔軟に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ベランダで利用者と一緒に野菜を栽培したり、料理の下ごしらえをしたりと、利用者の得意なことや好きなことを見出し、共に支え合う関係性を大切にしている。また、レクリエーションや音楽会、お茶、生け花、絵画、洗濯など、趣味や能力を活かし利用者の役割を意識し、関係性が築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々の関わりの中で外食や自宅への外出希望など利用者の思いや意向の把握に努めている。利用者の要望についてノートに記載し職員会議などで対応を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の健康状態に配慮しており、主治医とのケアプラン連絡体制がある。計画担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見や要望を取り入れ、介護計画を作成し2ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しを行っている。利用者の状況に変化があり、介護計画の見直しが必要ときには、ミーティングを開き計画の見直しを行っている。	○	安定しているような利用者の場合も、月に1回程度は、新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認するとともに、ケア関係者の最新の情報や気づき、ケアのアイディアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しが望ましい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外出、外食などの支援を行っており、家族の希望に応じて家族に食事を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択においては、利用者や家族の希望を大切に、定期的な受診や通院支援が行われている。また、協力医療機関に毎日利用者の健康状態について報告を行い、月に2回往診を行ってもらい体調管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応方針を定め、入居時や利用者の状況に応じて家族に口頭で説明し同意をもらっているようであるが、説明内容と家族の同意について書面がないため、確認が出来ない。	○	重度化や終末期に対する対応方針の説明内容や家族の同意について後で確認できるように書面化したほうが望ましいと思われる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所に個人情報の保護方針や利用目的について掲示し、記録物は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながら、親しみが持てるような声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて食事やお茶を居室でとってもらうなど、場所や時間を調整している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配膳・下膳を能力に応じて行い、職員と一緒に同じテーブルで会話を楽しみながら食事を行っている。また、食事摂取状況を見ながら、嗜好を取り入れたメニューを検討している。旬の野菜を利用者と一緒にプランターで育て、食材として活用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って、入浴時間の調整を行ったり、みかん風呂や入浴剤を用いたり一人ひとりの希望に応じた対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者と共に行う行事やホーム内の会議を行う場合、司会や挨拶を行ってもらうなど、利用者のこれまでの生活歴や能力に応じて役割を意識した行動が行えるように支援している。また、プランターで野菜を育てたり、家事を手伝うなどそれぞれの役割を見出し、楽しみながら生活が出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や健康状態、天気に応じて近隣の公園などに散歩に出かけるなど、日常的に外出の機会がある。また、週に2回ドライブや買い物に行ったり、地域の行事等に参加を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときはさりげなく一緒に散歩についていくなど、利用者の行動を見守りながら支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に災害に備えた避難訓練を行っているが、夜間を想定した避難訓練は行っていない。事業所と同じビル内に同法人の職員の住居もあり、緊急時は協力できるように体制を整えているが、地域の協力体制は整っていないようである。また、年に1回災害に備えた勉強会を行っている。災害時の飲食の備蓄は、近隣の同法人の母体施設に備蓄している。しかし、懐中電灯などの備えは不足している。	○	地域の協力、夜間も想定した避難訓練や夜間の災害を想定した避難訓練を定期的に行うことが望ましい。また、緊急時にすぐに対応できるように、懐中電灯などの備えは必要である。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の栄養士や看護師により、各利用者に応じた栄養計画書を作成し、朝と昼のカロリー計算を行い、食事摂取や飲水量を確認している。摂取状況が悪く栄養が不足していると思われる利用者には、高カロリーのジュースなど補食を提供している。また、嚥下状態に応じ刻み食やとろみ食にするなど、協力医療機関のアドバイスを活かし援助している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、畳が敷かれソファなど利用者が自由にくつろげる配慮がなされている。また、生け花や雛人形など季節が感じられるような空間づくりを心がけている。トイレは、利用者の使用状況に応じて頻回に掃除を行い、臭いが気にならないように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有空間には、使い慣れた鏡台や思い出の写真、利用者の描かれた絵画など利用者の馴染みのものを置かれ、居心地よく過ごすことが出来るような配慮が感じられる。		